

# ホタテガイ採苗速報

## 採苗器から落下した稚貝も有効活用しましょう

採苗器の移動は稚貝が目に見えるサイズ（殻長1～2mm）になってから、涼しい早朝に実施し、再垂下後は施設を安定させ稚貝を養生させましょう。また、移動後のへい死を防ぐため、以下のことに注意しましょう。

### 1 船で運搬する場合（採苗器）

#### (1) 甲板

付着した稚貝が大量に落ちる危険性があるので、直接採苗器に散水しないでください。直射日光、風に当てないように、麻袋、毛布、絨毯などで採苗器を覆い、その上から散水して昇温、乾燥を防いでください。また、甲板にはビニールシート等を敷き、その上に採苗器を置くことで、脱落した稚貝が再利用（下記参照）し易くなります。

#### (2) 甲板に新たに積んだ水槽

直射日光に当てないように、麻袋、毛布、絨毯などで水槽を覆い、酸欠を防ぐため、海水をかけ流ししててください。

### 2 トラックで運搬する場合（採苗器）

施設から回収してもらった後、採苗器を水槽で保管する場合は酸欠に注意し、陸上で保管する場合は直射日光や風が当たらない場所で、濡れた麻袋等で採苗器を覆ってもらってください。

#### (1) 覆いのないトラック

日光による昇温、風による乾燥が起き易く、へい死するリスクが高いため、運搬方法は保冷車、船にしてください。

#### (2) 保冷車

冷気が直接当たると凍結し、へい死するリスクが高いので、十分に濡れた麻袋、毛布、絨毯などで採苗器を覆い、乾燥を防いでください。

(裏面に続く)



①



②

### 3 甲板、水槽、荷台に落下した稚貝の有効活用

落下した稚貝を新たな採苗器2袋それぞれに一掴みずつ再収容し、施設に垂下した結果、目合い2分のパールネットに収容できるサイズまで成長した（図1）ことから、採苗器から落下した稚貝であっても利用できる種苗となることが分かっています。

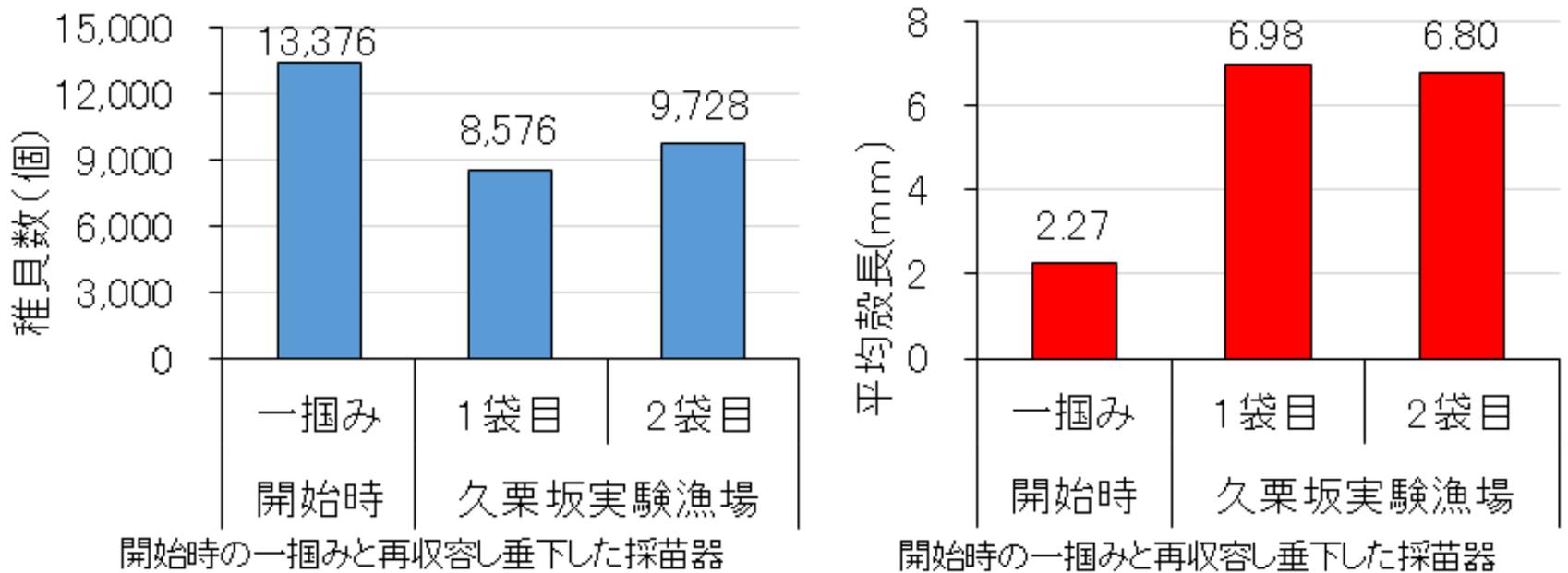


図1 令和4年6月の開始時と8月に久栗坂実験漁場から回収した採苗器の稚貝数と平均殻長



①



②